

たま
シャボン玉

ぶん え よしみず
文・絵 吉水いちご

sample
シャボン玉

たま

あるひ ママが おおきな えをもって かえってきた。

そして リビングに かざった。

ぼくは「ママ このえ どうしたの?」って きくと

「このえは ともだちの たいせつな えなの。

3にちかんだけ あずかってと たのまれたのよ。

おひっこしするんですって。キズついたら こまるので

かざっておいて ほしいって。」

「すてきな えよね? ママは すきだわ。こうちゃんはどう?」と

しつこく きくものだから ぼくは うわのそらで

「うん いいえだね。」と うなずいておいた。



ママは まんぞくそうに えを みつめていた。

そして くるりと ふりむくと こういった。

「こうちゃんは もうすこしで 9さいになるのだから
やくそく まもれるよね。」

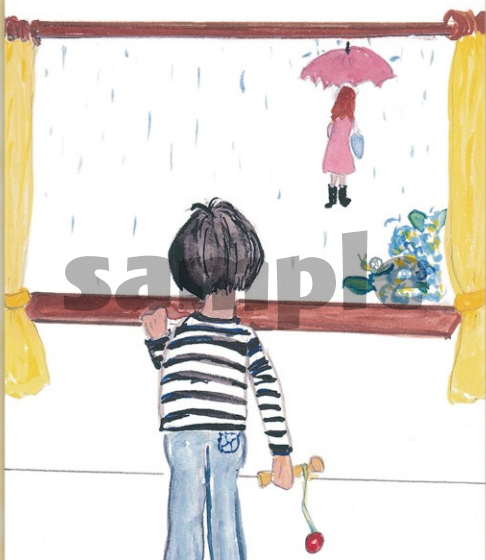
「このえには ぜったい さわらないこと。 やくそくよ。」と

どういうわけか ゆびきりまで させられた。

「へんな ママ…。」と ぼくは おもった。



つぎのひ ママは かいものに いくので
「おるすばんしてね。」と 言って でかけた。
なのに わすれもの を したかのように すぐもどってきて
「あのえは ぜったいに さわらないでね。やくそくよ。」
それだけいうと さっさと でかけていった。
そとは あめた。
ともだちは こないし たいくつになった。



ぼくは はじめて えを じいっとみた。

そうげんのなかに ひとりの かわいい おんなのこが いた。

「ぼくと おなじ としかな…」

きんいろの かみのけが くさばなと おなじように
ゆれているように みえた。

あのこは シャボン^{たま}玉を ふいている。

「ふうん。」と おもって ながめていると

せっけんの いいかおりがしてきた。



おどろいた。おんなのこが ぷいている シャボン玉が
ぼくのほうに ふんわりと とんできた。

ぼくは てを のばして ゆびで そのシャボン^{たま}玉を
そおっと つっついてみた。

「パシャーン」と シャボン^{たま}玉がわれた。

そのうち シャボン^{たま}玉は つぎからつぎへと えから とびだしてきた。

ぼくは ドキドキした。

でも やっぱり つっついては パチン・パシャーンと
おもしろいほど われていく。

An illustration featuring a hand pointing upwards from the bottom right. The hand is wearing a sleeve with black and white horizontal stripes. From the tip of the index finger, a burst of multi-colored confetti (red, yellow, blue, green) is scattered upwards. Several translucent, multi-colored bubbles are floating in the air around the confetti. The background is white, framed by vertical yellow borders on the left and right sides.

sample

ぼくは おもしろくなって おもわず
「ゲラゲラ。」と わらっていると
となりに えのなかの おんなのこが
「あなたも シャボン^{たま}玉 ふいてみる？」と いった。
「うん。」 おそろおそろ ふいてみた。
おおきな にじいろの シャボン^{たま}玉ができた。



「おじょうずね。」と おんなのこは よろこんでくれた。

ぼくの ふいた シャボン^{たま}玉を ぼくが さっきしていたように

おんなのこは 「ブチーン パシャーン」と つつきはじめた。

いやな きは しなかった。

それどころか とても たのしかった。

こんな きぶんになれたのは ひさしぶりのような きがした。

sample



そのとき「ただいま。」と ママの こえがした。

そして ママは

「あら こうちゃん いないの？」

「おるすばんしてね。 って いったのに…。 あそびに いったのかしら…。」と

ママの こえ。

そのとき はじめて ぼくは えの なかに いることに きがついた。

ママは えの まえを とおりすぎていく。



「やばい! たいへんだ!」

ママとの やくそくを まもらなかったから えの なかに
すいこまれたんだ!

ママは そうとも しらずに 「しかたないわね。」

そうつぶやくと だいどころのほうに いったらしい。

かってきたものを かたづけている おとがした。

ぼくは えから とびだしそうに なったとき

おんなのこが いきなり ぼくの うでを つかんだ。

「にげないでね。わたしと シャボン^{たま} ぶいてみましょう。」

「どうしよう。」 ぼくは こわくなってきた。



ぼくは きゅうに かなしくなった。

こぼれおちる なみだを ふきながら

「ママ! ぼく ここにいるよ! えのなかに いるよ!」と さげんでみた。

ママは ぜんぜん きがついていない。

このまま ぼくは えたいの しれない おんなのこと いっしょに

ずうっと シャボン^{だま}玉を ふきつづけるのかな?

なみだは つぎから つぎへと ながれた。

「たすけて。」と かすれた こえしか でてこない。

こんどこそ おもいきり さげんだ。「たすけて! ママ!」

そのとき おおつぶの なみだが シャボン^{だま}玉に あたって

パシャーんと おおきく われた。



「どうしたの？ こうちゃん。」 ぼくの めのまえに
ママの かおがあった。

そして 「なにか こわい ゆめでも みてたの？
こんなに ホッペが ぬれちゃって。」と

ママは ぼくを ギュツ!と だきしめてくれた。

ぼくは あんしんした。

どうやら えのまえで ねていたらしい。

ママは いった。

「やくそく まもって くれたわよね？」

「ぜったいに あのえに さわらないって！」

そういうと ママは なぜか ニヤリと わらったようにみえた。



いしだえほん No.0048

石田
シャボン玉

2018年6月7日 初版発行

文・絵 **吉水いちご**

印刷・製本・発行 **石田製本株式会社**

〒063-0836 北海道札幌市西区発寒16条14丁目3-31
TEL 011-676-4520
<http://i-bb.co.jp/>

©2018 Ichigo Yoshimizu / Ishida Bookbinding

※本書の無断複製（コピー、スキャン、デジタル化等）並びに無断複製物の譲渡及び配信は、著作権法上での例外を除き禁じられています。

また、本書を代行業者などの第三者に依頼して複製する行為は、たとえ個人や家庭内での利用であっても一切認められておりません。

落丁・乱丁はお取り替えいたしますので、弊社までご連絡ください。

ISBN978-4-909377-47-0

石田製本の直販サイト「いしだえほん」にて、
シリアスな物からシュールな物まで、楽しい絵本が続々発売中です！
<http://p-books.jp/ehon/>

ISBN978-4-909377-47-0
C8771 ¥1200E

定価：本体1,200円＋税



9784909377470



1928771012000

sample